

座間総合病院の竣工式

3月26日、4月1日の開院が間近に迫る中、座間総合病院において、竣工式が執り行われました。座間市の遠藤市長を初め、病院事業者はもとより、土本南関東防衛局長、在日米陸軍等からも多数の関係者が出席しました。

救急対応を担える病院の不足、病院用地の確保の問題、国有地活用の仕組みの改善等、病院事業を進めるにあたっての様々な課題を遠藤市長の強いリーダーシップのもと、在日米軍、関係省庁等からの協力を得ながら病院開院につなげてきました。

座間市民の大きな願いである病院、座間の地域社会の安心安全に対する市長はじめ座間市民の強い思いがあつたからこそなした事業です。



【左端から：パスカレット在日米陸軍司令官、遠藤座間市長】



【前列右から2人目：土本南関東防衛局長】

返還地全体の跡地利用

本返還地では、座間総合病院のほか、座間市が行う事業として、新消防庁舎の建設、公園の整備、市道の整備が計画され、順次進捗しております。新消防庁舎においては、防衛省の補助事業として、庁舎建設に係る実施設計が完了し、消防庁舎用地の購入を行った後、平成29年度中の完成を目指して取り組んでおります。さらに、座間市は、公園の整備も計画しており、整備計画の策定後、着手していくとのことです。

また、陸上自衛隊が平成25年5月から家族宿舍建設のために、在日米軍と共同使用をし、返還後の跡地利用を見据え、建設工事を実施しております。

キャンプ座間の一部返還地（5.4㌔）の跡地利用構想図

